

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：32710

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02836

研究課題名(和文) 能動型学習を目指す英語多読指導に役立つアクティビティの開発と選定

研究課題名(英文) Designing and Developing Extensive Reading Activities to Foster Active-Learning

研究代表者

草薙 優加 (Kusanagi, Yuka)

鶴見大学・文学部・教授

研究者番号：50350335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：停滞しがちな英語多読を能動的で持続可能な読書活動に変え、それを読者自身にとって意味のある読書体験とするために、読者の思考を活性化・進化させる効果のある多読アクティビティを開発した。これらのアクティビティに適したテキストを探索する過程で、多読用読本の使用に加えて英語絵本使用の有用性が認められた。選定した多読アクティビティのリストと実践内容、英語絵本のリストと詳細情報は、多読研究者や教育現場の教員が参照できるようホームページにて公開し、研究成果を英語教育界および社会に還元した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、国内の教育機関では学習者の英語力を高める教育方法の一つとして英語多読の実践が盛んになっている。英語教育者の間で英語多読への注目が高まる一方で、実際の授業においては英語多読が反復活動となりがちで、その結果、読書への意欲を失う学習者が少なくないことが観察されている。読書を行わないと読書の面白さも感じられず、英語力もつかないという課題を打破する方策が必要である。本研究の成果として、国内外の英語教育者のアクセス、教育実践可能な能動型学習として多読アクティビティと多読リソースを提供する。

研究成果の概要(英文)：The central goal of our project was to develop activities that enhance the effects of extensive reading (ER) for English learners. ER itself is a powerful means to improve language skills, but it is essential for ER programs, especially in university classrooms, to provide learners with meaningful learning opportunities (i.e., activities) beyond individual reading in order to motivate them to continue reading, stimulate their intellectual curiosity, and to expand their critical thinking skills. We tested various activities and made a list of effective activities with detailed information including the rationale, procedure, and learner reactions for each. We also selected useful picture books to be used with these activities, since choosing quality reading materials is crucial for the activities to reach their full potential. The detailed descriptions of the activities and the picture books are made available in Japanese and partially in English on a website.

研究分野：英語教育

キーワード：英語多読アクティビティ 読書コミュニティ 能動型学習 対話 絵本 自律性 教養

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、先行研究「複合的多読授業の研究：フィンランド式教育法に基づくアクティビティの開発」(基盤研究C H24-H27年度)で得た、英語多読を協同・能動型学習に結びつける方法を探る可能性を探る必要性という教育研究ニーズに端を発している。

多読とは、学習者が各自の関心に応じたジャンルならびに適切な言語レベルの図書を自ら選び、段階的かつ継続的にそれらを大量に読むことで英語の運用能力を高める学習方法である。この学習法を支える基盤として、第二言語 (English as a second language, ESL) あるいは外国語としての英語 (English as a foreign language, EFL) を学ぶ学習者のために語彙や言語構造等がコントロールされた多読用図書が多数用意されており、言語レベル的には学習者が無理なく読書が続けられるように配慮されている。

しかしながら、母語での読書経験が乏しい学習者、短い英文しか読んだことがない学習者、試験勉強・受験勉強のためにしか英文を読んだことがない学習者らにとって、外国語である英語で多読を行うことは容易ではない。またひとりで英文に向き合って読書をする「独書」という行為が長続きしない傾向も見られる。

この課題解決の第一歩は、多読リソースの知識を得ること(どのような本があるか、何をどう選べばよいのか、どう読めばよいのか、どう記録するのか)、自身の読書経験の省察(英語運用能力、読み方の変化、読書から得たものとその意味を探る)を行うことである。この一連の過程は一人でも実行可能だが、本研究グループのメンバーは、学習者が建設的な読書コミュニティに身を置いて多読アクティビティに取り組み、教員や仲間と多読に関する情報や意見を共有し、互いに支援しあう、という学び合う経験の有無が、多読への動機向上や読書習慣の形成をより促進させることを前プロジェクトで確認した。そこで、本研究では、「能動型学習を目指す英語多読指導に役立つアクティビティの開発を選定」をテーマに据えた。

2. 研究の目的

上述のとおり、能動型学習としての英語多読指導に貢献するアクティビティの開発と選定を目的とする。本研究グループがデザインした多読アクティビティ、国内外の多読研究者や教員が開発した多読アクティビティを日本の教育現場で実践し、その教育効果を実証的に検証する。その中から、個人活動である英語多読をより活性化させる効果のあるアクティビティを抽出し、これらのアクティビティにおける学びのプロセスを可視化する。また、選定したアクティビティに適する図書のリスト作成等、多読研究者や教育現場の教員が参照できる研究報告や教育資料を共有することで、研究成果を英語教育界および社会に還元することが最終目的である。

3. 研究の方法

本研究は、次の4ステップで行った。

基礎調査

既存の多読アクティビティ資料を収集し、その中から日本人学習者にとって教育効果が高いと思われるものを抽出した。平行して、読書コミュニティづくり、多読アクティビティに応用可能なワークショップ手法を学んだ。さらに、これらのアクティビティに使用する多読資料を広く収集し、その精査を行った。

教育実践・データ収集

基礎調査で抽出したアクティビティに、本研究メンバーのアクティビティ・レポーターに加えて多読アクティビティの分類を行った。そして、研究代表者と研究分担者の多読授業で実践を行い質的・量的データを収集した。

データの分析・中間発表

随時、質的・量的データを分析し、成果発表(国内外学会での口頭発表、論文発表、教育誌への寄稿、多読リソースとアクティビティを発信するホームページの開設と公開、教育ワークショップの実施等)の準備を行った。

4. 研究成果

(1) 研究成果の概要

先行多読アクティビティ (Bamford & Day, 2004 より 106 アクティビティ; Jacobs & Farrel, 2012 より 58 アクティビティ 7) を、対人スキル(一方向/双方向) 発問力スキル(自発的発問他)の観点から分類した結果、従来の多読アクティビティには学習者が自ら「問い」を立

て「発問力」を醸成できるアクティビティが少ないことが分かった。また、これらの先行アクティビティは ESL 環境下での実践の例であり、EFL 環境下である日本の教育コンテキストと異なり、学習者自ら問いを立ててやり取りをするという前提がある。日本の教室文化において学習者は「場の雰囲気を読む」方向に流れやすく、教室で質問することに慣れていないため、問いを立てるといった行為や各自の考えを伝える意義を明示的に示すアクティビティが必要であると結論づけられた。つまり、主体的・対話的な多読アクティビティとは、単に読んだ本に関して一見活発に見える表層的な口頭のやり取りができることではなく、学習者が他の学習者と対話をしながら、その過程で内容理解や思考を深めること、その過程を意識する経験を持つことが必要であり、そのためには「問いの質」が求められると言える(草薙 深谷, 小林, 2017)。

この結果をもとに、自発的な発問力を高め、読み手と多読テキストの対話、学習者間の対話の促進が期待できる能動型多読アクティビティとして、ワークショップの手法である「ワールドカフェ」(Brown, Isaacs & the World Café Community, 2005) や「グラフィック・レコーディング(ファシリテーション・グラフィックとも呼ばれる)」(Schiller, 2017)に可能性を見出し、多読アクティビティに活用した。両手法は、視覚的な書記情報を用いることが大きな特徴である。学習者の書記情報を分析した結果、これらのアクティビティはグループ内のディスカッションを活性化し、さらにはグループ間すなわち教室コミュニティとしての「集合知」の獲得を可能にすることが分かった。こうしたアクティビティによる対話はメンバー間の多様な考えや反応に触れる機会となり、認知的、非認知的な刺激を得て、読み手がさらに多読テキストと深く対話することを促す(草薙 深谷, 小林, 2018; Kobayashi, Fukaya, & Kusanagi, 2018; Kusanagi, Fukaya, & Kobayashi, 2018; 草薙 深谷, 小林, 2019)。

以上にみる能動型多読アクティビティが学習者にとって「意味のある活動」になるか否かは、対話の対象となる多読リソースである読本の内容による。「語るべき/語りたい何か」が内包されているか否かが、学習者の参加度や対話の質と深さを左右する鍵である。外国語として英語を学ぶ日本の大学生にとっては、英語言語能力が発展途上であっても、知的探求心を満たすことが求められる。しかし、この条件を満たすような多読用図書は、初級用であればあるほど、そう多くはない。そこで我々は英語の絵本に着目した。元来、絵本は幼い子ども向けに書かれたものだが、名作とされる絵本や近年注目されているポストモダン絵本などは、子どもよりもむしろ大人の読者こそ、その世界観を深く味わうことができる。このような英語絵本は、文字数が少なく、簡単な構文、語句、表現を使いつつも根源的な人の営みや価値観を扱っており、言語的に未発達であるが認知的に発達している外国語学習者がディスカッションに用いるのに相応しいテキストである。

上記の条件を満たすテキストとして、有用な絵本を選定し、適切なアクティビティと組み合わせた実践例を多読教育実践者・研究者や多読に関心を持つ人々に向けた研究会、国内外大会でのワークショップや口頭発表の実施(Kusanagi, Fukaya, & Kobayashi, 2017; Kusanagi, Fukaya, & Kobayashi, 2019)、図書館司書向け書籍への寄稿(草薙, 2019)、中等教育教員向け雑誌『英語教育』(2019-2020)への寄稿、さらに、2020年2月に研究成果のホームページ公開、2021年2月にその改訂(コンテンツの充実とバイリンガル化)を行った。

(2) 本研究の成果と今後の展望

「能動型学習を目指す英語多読指導に役立つアクティビティの開発と選定」を目指し、出発した本プロジェクトでは、日本人学習者の特性と学習ニーズにあったアクティビティの効果を検証したうえで、中学・高等学校、大学の教員・研究者が参照できるアクティビティの開発と、それらに適した絵本の選定を終えることができた。本プロジェクトのメンバーは、なお新たなアクティビティづくり、絵本の選定に着手しており、今後さらにリストを充実させ、成果公開ホームページの更新を継続する。また、本プロジェクトで得た知見を出版という形で公開することも検討している。

< 引用文献 >

- Bamford, J., & Day, R. R. (Eds.). (2004). *Extensive reading activities for teaching languages for teaching language*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- Brown, J., Isaacs, D., & World Café Community. (2005) *The world café: Shaping our futures through conversations that matter*. San Francisco, CA: Bernett-Koehler.
- Jacobs, G., & Farrell, T. S. C. (2012). *Teacher's sourcebook for extensive reading*. Charlotte, NC: Information Age Publishing.
- Schiller, A. L. (2017). *Graphic recording: Live illustrations for meetings, conferences and workshops*. Harztor, Germany: Gestalte.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Kusanagi, Y., Kobayashi, M., & Fukaya, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 An effective approach to inspire readers: Introduction to stimulating picture books in extensive reading.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The 5th World Congress on Extensive Reading Proceedings.	6. 最初と最後の頁 95-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 草薙優加	4. 巻 68（5）
2. 論文標題 親のまなざし、子どものまなざし：Come away from the water, Shirley	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 草薙優加	4. 巻 68（9）
2. 論文標題 海を越えた家族の物語：Grandfather's Journey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 草薙優加	4. 巻 68（13）
2. 論文標題 贈り物ってなに？：Badger's Parting Gifts	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林めぐみ	4. 巻 68(4)
2. 論文標題 鏡よ、鏡 おとぎ話再訪：Mirror, Mirror: A Book of Reverso Poems	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林めぐみ	4. 巻 68(7)
2. 論文標題 起き上がる卵：After the Fall: How Humpty Dumpty Got Back Up Again	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林めぐみ	4. 巻 68(11)
2. 論文標題 マイペースで行こう：The Story of Ferdinand	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深谷素子	4. 巻 68(6)
2. 論文標題 絵本なのに・・・この結末？：I Want My Hat Back	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深谷素子	4. 巻 68 (10)
2. 論文標題 誰が何をなくしたのか : The Lost Thing	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深谷素子	4. 巻 68 (12)
2. 論文標題 目に見えているものを疑ってみると・・・ : It Might Be an Apple	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kusanagi, Y., Kobayashi, M., & Fukaya, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Creative and meaningful classroom activities to foster a reading community	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the Fourth Extensive Reading World Congress	6. 最初と最後の頁 162-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 草薙優加, 深谷素子, 小林めぐみ	4. 巻 -
2. 論文標題 読後ディスカッションで何が語られているのか : 書記記録分析の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本国際教養学会第7回全国大会プロシーディングス	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 草雉優加, 深谷素子, 小林めぐみ	4. 巻 5
2. 論文標題 ワールドカフェ式ディスカッションの分析: 書き込み記録から見えてくること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本国際教養学会オンライン・ジャーナル	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深谷素子	4. 巻 XI
2. 論文標題 大学生の読書意欲を高める英語読書指導 読書離れ対策としての英語多読授業の可能性を探る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英文學研究 支部統合版	6. 最初と最後の頁 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草雉優加	4. 巻 -
2. 論文標題 文学作品を使う英語教育が目指す<主体的・対話的で深い学びとは>	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本英文学会第90回全国大会プロシーディングス	6. 最初と最後の頁 101-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林めぐみ	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 みんな何かを探してる: The Missing Piece	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深谷素子	4. 巻 68(3)
2. 論文標題 あなたはひとりじゃない: I'm Here	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草雉優加	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 人生は冒険: The Adventures of the Dish and the Spoon	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草雉優加	4. 巻 2019
2. 論文標題 Book Review 『イン・ザ・ミドル ナンシー・アントウェルの教室』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新英語教育	6. 最初と最後の頁 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, M., Fukaya, M., & Kusanagi, Y.	4. 巻 50
2. 論文標題 Using the World Cafe to increase appetite for extensive reading: A cooperative and constructive book discussion.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 成蹊一般研究報告	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kusanagi, Y., Fukaya, M., & Kobayashi, M.	4. 巻 2018
2. 論文標題 Creative and meaningful classroom activities to foster a reading community.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Extensive Reading World Congress	6. 最初と最後の頁 162-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 草雉優加	4. 巻 -
2. 論文標題 教養英語教育に求められる学びとは	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本国際教養学会第5回全国大会プロシーディングス	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深谷素子	4. 巻 1
2. 論文標題 ワールド・カフェで短編小説を読む：読書活性化に資する英語多読指導法	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本英文学会第88回全国大会Proceedings	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fukaya, M.	4. 巻 97
2. 論文標題 書評 Koichi Fujino: Studying and teaching W. C. Faulkner, William Faulkner, and digital literacy: Personal democracy in social combination	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英文學研究	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20759/elsjp.97.0_79	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kusanagi, K., Fukaya, M., & Kobayashi, M.
2. 発表標題 Good ingredients to inspire readers: Introduction to useful picture books in extensive reading.
3. 学会等名 The 5th World Congress On Extensive Reading (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 草薙優加
2. 発表標題 文学作品を使う英語教育が目指す <主体的・対話的で深い学びとは>
3. 学会等名 日本英文学会第90回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 草薙優加, 深谷素子, 小林めぐみ
2. 発表標題 読後ディスカッションで何が語られているのか：書記記録分析の試み
3. 学会等名 日本国際教養学会第7回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深谷素子
2. 発表標題 大学教育と多読の可能性
3. 学会等名 東京都市大学・外国語共通教育センター主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 深谷素子
2. 発表標題 ワールド・カフェで短編小説を読む：読書活性化に資する英語多読指導法
3. 学会等名 日本英文学会第88回全国大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 草薙優加, 深谷素子
2. 発表標題 アクティブ・ラーニングを取り入れた図書館多読の事例
3. 学会等名 NPO多言語多読 第3回シンポジウム「図書館多読への招待in多治見」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 草薙優加, 深谷素子, 小林めぐみ
2. 発表標題 英語コミュニケーション力を高める多読アクティビティの考察
3. 学会等名 日本国際教養学会第6回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 深谷素子, 草薙優加
2. 発表標題 多読入門講座：英語多読を人文学教育に活かすために
3. 学会等名 鶴見大学第2回文学部FD 実践・情報報告会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kusanagi, Y., Kobayashi, M., & Fukaya, M.
2. 発表標題 Creative and meaningful classroom activities to foster a reading community
3. 学会等名 The 4th World Congress on Extensive Reading (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 草薙優加, 深谷素子, 小林めぐみ
2. 発表標題 英語多読指導における電子書籍の使用効果を探る
3. 学会等名 日本国際教養学会第9回全国大会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 日本国際教養学会 (著) 岩中孝裕 (監修) (執筆担当: 第1章 深谷素子、第2章 草薙優加)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 成美堂	5. 総ページ数 95
3. 書名 The intersection of arts, humanities, and science: Fifteen selected passages for university students.	

1. 著者名 深谷素子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神奈川新聞社	5. 総ページ数 101
3. 書名 本を読まない大学生と教室で本を読む: 文学部英文科での挑戦	

1. 著者名 酒井志延, 朝尾幸次郎, 小林めぐみ (編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 196
3. 書名 社会人のための英語の世界ハンドブック	

1. 著者名 酒井志延, 小林めぐみ, 鳥山淳子, 土屋佳雅里 (執筆担当: 第1章 小林めぐみ)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 184
3. 書名 映画で学ぶ英語の世界	

1. 著者名 西澤一, 米澤久美子, 栗野真紀子編著 (執筆担当: 第 部 図書館多読の現状 4章 高専・大学の現場から 4.5 鶴見大学 草薙優加)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本図書館協会	5. 総ページ数 198
3. 書名 JLA図書館実践シリーズ40 図書館多読のすすめ方	

1. 著者名 小林めぐみ, 藤田玲子, Peter J. Collins (編著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 100
3. 書名 Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk (NHK Direct Talk 世界を変える声を聞く)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果公表ホームページ

サイト名：「英語多読で広がる世界 アクティビティ集と英語絵本」"Extending the World of Extensive Reading: Useful Activities & Selected Picture Books"

英語多読教育研究会English Education through Extensive Reading (草薙優加・小林めぐみ・深谷素子)

URL: <https://www.tsurumi-u.ac.jp/research/20200201/#other>

2020年2月公開、2021年2月改訂

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	深谷 素子 (Fukaya Motoko) (40468616)	鶴見大学・文学部・准教授 (32710)	
研究 分 担 者	小林 めぐみ (Kobayashi Megumi) (50339587)	成蹊大学・経済学部・教授 (32629)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------